

イノベーション・マネジメントシステム

OKIは、イノベーション・マネジメントシステム (IMS) [Yume Pro]を導入し、イノベーション創出活動に取り組んでいます。これは、組織の状況を踏まえて、リーダーシップ、ビジョン、計画、支援体制、イノベーション創出活動、評価・改善に有機的に取り組み、成熟度を高めていく仕組みで、IMSに関する国際規格ISO 56002を先取りした取り組みとして評価※されています。

※経済産業省「日本企業における価値創造マネジメントに関する行動指針」(2019年10月)

◆ ビジョン

Yume Proは、SDGsに掲げられている社会課題をイノベーションによって解決することを目指しています。中期経営計画2022において打ち出したOKIグループのマテリアリティに基づき、アフターコロナも見据えて策定した成長戦略(P22参照)、およびイノベーション推進の中期計画(イノベーション中計)をビジョンとしてグループ内に展開し、「機会に関する意図」の共有を図ります。

◆ 組織と計画

イノベーション推進体制として、2020年4月に従来のイノベーション推進部と研究開発センターを統合した社長直轄組織「イノベーション推進センター (IPC)」を設置しました。IPCが中核となり、リソースを総合的に活用することによって、IMSの成熟度を高めていきます。

2019年度に実施したYume Proのレビューでは、「チャレンジする企業文化に変わる兆しが出つつあるが、拠点・部門による温度差がある」などの評価・検証を行いました。2020年度の事業計画およびイノベーション中計に、こうした課題に対応するための改善施策を盛り込み、実施しています。

◆ 支援体制(社内文化改革)

OKIはグループのリソースをイノベーションに総合的に活用できる体制を構築するため、表に示す各種の教育やイベントにより、社内文化の改革を進めています。その一環として2017年度にスタートしたイノベーション研修は、2022年度

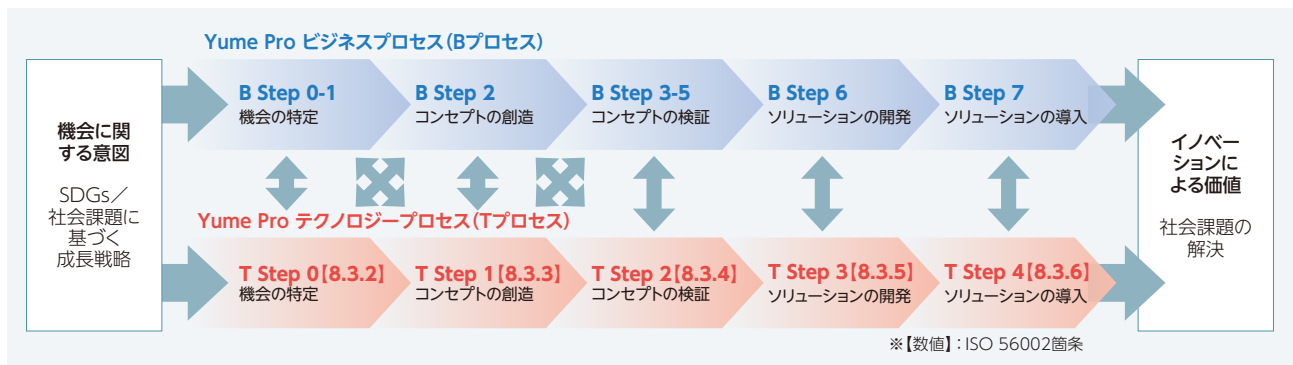
までにグループの国内社員の約半数となる6,000名に対して実施する計画としており、2020年10月現在、2,692名が受講を終了しています。2020年度は新型コロナウイルス感染防止のためオンラインによる開催とし、584名がこの形式で受講しました。オンライン社内研修としてはあまり例のない大規模な研修であり、外部のセミナーでも事例として紹介しています。また、お客様と共同でSDGsからビジネス機会を探る共創活動も活発に行っています。

◆ イノベーション創出活動

OKIはIPC発足に伴い、これまでのYume Proプロセスに加えて、研究開発について「Yume Proテクノロジープロセス」を策定しました。研究開発活動においても、機会の特定段階において顧客の声を聴き、初期ビジネスモデルを構築していきます。

また具体的なテーマを発掘する場として社内アイデアコンテスト「Yume Proチャレンジ」を毎年開催しており、ここから生まれたコンセプトロボットとして2019年度のCEATECで発表した「AIエッジロボット」は、多くのマスメディアやお客様から高評価を得ました。OKIはAIエッジロボット、および2020年度の「Yume Proチャレンジ」で大賞を獲得した「多点型レーザー振動計」などについて、事業化に向けた仮説検証に取り組んでいます。

OKIのイノベーション・マネジメントシステム
https://www.oki.com/jp/yume_pro/



研究開発におけるイノベーションを推進する「Yume Proテクノロジープロセス」